

第4回県立大学の設置の是非を検討するための有識者会議 議事概要

1 日 時：令和4年1月27日（木）16：00～18：00

2 場 所：三重県庁講堂棟 131・132 会議室及びオンライン

3 出席委員

宇野 健司 株式会社大和総研 リサーチ本部 副部長

倉部 史記 NPO 法人 NEWVERY 理事、追手門学院大学 客員教授

中村 佳子 株式会社丸中商店 代表取締役社長

西村 訓弘 三重大学 地域イノベーション学研究所 教授（議長）

長谷川 敦子 三重県立津西高等学校 校長

吉田 文 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授（欠席）

4 内容（意見交換）

- ・ 今回の検討は、第1フェーズであり、次のフェーズに進むのであれば、第2フェーズとしては具体的なプラン（費用、場所、構想等）を検討することになる。第3フェーズでは、本格的に大学設置に向けたアクションを起こすことになるが、これが非常に難しい。
- ・ 大学の設置には、県議会、市町、報道機関や企業・団体を含めた県全体の協力が不可欠であるため、今後、県民全体での議論を喚起する必要がある。
- ・ 誰が中心になって進めるのかを議論する必要がある。県が中心となるよりは、大学のことを深く理解している人や大学設置を経験した人の方が望ましい。
- ・ 大学を設置する場合、学長などのキーパーソンが重要となるので、しっかり選出すべきである。
- ・ 運営体制については、トップやそのマネジメントが重要であるが、多くの大学で課題になっている。教育のクオリティがあがるような体制にしなければならない。
- ・ 誰のための大学か、何のためにつくるのかをはっきりさせる必要がある。県民のため、県の未来のための大学であることを記載してはどうか。
- ・ 県立大学が果たす機能として、県内定着をめざすことを記載すべきではないか。
- ・ 企業が将来的に必要とする人材と1か月後の業務に必要な人材は異なる。課題認識の箇所で記載のある人材と企業の求める人材が合っているのか分からない。報告書では、未来への投資として、三重県の将来に必要な人材を育成することに触れてもよい。
- ・ できるなら大学をつくっていただきたい。大学と企業が接点を持ち、ともに成長していけるとよい。
- ・ これまで、何のために県立大学をつくるのかという議論ができていなかったと思う。子どもたちが成長するための大学を県でつくり、その結果として、県外流出が減る、人材が育成されるということではないか。必要性について、「こういった教育を行っていく必要がある」という考えがまず前提にあったうえで、人材流出の防止や学びの選択肢拡大に言及する必要がある。
- ・ 経済成長期と成熟期では、必要とされる人材は異なる。成熟期では、個性ある人たちの活躍が必要。江戸時代では、各地の藩校が人づくりの土台となり、各地域

の特徴を生かした人づくりを行っていた。こうした教育が必要であるが、現在は、本当に必要な教育現場ができていないのではないか。

- ・ 高等教育の現状に触れる方がよい。現在の高等教育は、制度疲労を起こしている可能性があるため、県立大学で、高度人材を一から育成するのもよい。
- ・ 教育の制度疲労を発生させないよう、外部意見を一定反映させるなど、変化し続ける仕組みをもった大学にする必要がある。
- ・ 大学の役割として研究だけでなく教育にも力を入れるべき。学生の人間力、行動力、主体性を伸ばす教育を重視すべきである。
- ・ 学生数といった量だけでなく、質として、現在の三重県にはない教育を行うことを記載するとよい。
- ・ あるべき人材像がはっきりと書き込まれていない。8 ページで人材育成について、アカデミック・スキル、プロフェッショナル・スキル、ジェネリック・スキルの3つに分けることを記載しているが、どれが重要であるか踏み込んでいない。主体性や行動力、人間関係構築力を育成するジェネリック・スキルが一番重要である。
- ・ 高等教育の潮流を県民のみなさんが知っているわけではないので、現在の大学で取り入れられているアクティブラーニングやインターンシップ等の取組やその目的を丁寧に説明してはどうか。
- ・ 大学を設置するのであれば、研究者の育成よりも、学生の育成に注力するといった議論があったことを記述してはどうか。
- ・ 子どもたちが高校までで人間力を養っていないので、人としての基礎を訓練する大学としてはどうか。大学に入ってからでも、十分に人間性は養える。県立大学が養成する人材像について報告書に記載するとよい。
- ・ 生きるための基盤を教える大学をつくることで、子どもが個性の生かし方を理解し、成長するようなきっかけを与えられるとよい。世界に通じるオンリーワンになっていく人材の中には、生き抜いていくジェネリック・スキルが根底にあると思う。
- ・ 具体的な学ぶ内容でなく、あるべき人材像を追記してはどうか。
- ・ 次年度以降の議論においては、人材像についてしっかりと考えることが必要であることを記載すべきである。
- ・ 10 ページの運営体制が一番大事であり、核として据えて検討してほしい。まとめの箇所にも記載してはどうか。運営体制の箇所は、段落ごとに趣旨が異なるため、段落ごとに見出しをつけてわかりやすくしてはどうか。
- ・ 論点を整理して、次の議論に引き継いでいくことが必要である。
- ・ 人事異動で県職員が公立大学に配属されることについて、専門性が育たないなどネガティブに捉えられる傾向にあるが、その配属期間も人材育成の場として機能させることができる。
- ・ 県立大学を新設した場合、高等教育コンソーシアムみえの事務局を三重大学から県立大学に移し、県発展のハブの役割を果たすことができるのが望ましい。
- ・ 産業振興を行う場合、県立大学が核になって盛り上げていくのが望ましい。
- ・ 県と連携し、シンクタンク機能等を果たしていく必要がある。

- ・ 8 ページの独自性・特色について、学部・学科・コース、教育内容（アクティブラーニング等）だけではなく、もう少し多面的に県立大学の独自性の出し方について検討することを記載してはどうか。
- ・ 高校まで出向き、三重県のことを教える大学があってもよい。県内の高校生たちに、大学で学べることなどを教え、今後につないでいく役割を果たせるとよい。
- ・ 何を学ぶのかではなく、どう学ぶのかが重要であるため、どう学ぶのかにフォーカスした議論が必要である旨を記載してはどうか。
- ・ 自分の行きたい方向を高校時代に決められない子どももいることから、そうした子どもたちが将来の方向性や学びたいものを見定め、生きる道を探せるような大学があってもよいのではないか。
- ・ 中退する学生もいるので、高等教育コンソーシアムみえと協力して、高校生の進路選択をサポートし、私立大学の中退率を下げることができれば、既存の大学にも寄与することができるのではないか。大学に入ってから多少の進路変更の希望に応える取組も行えたらなお望ましい。
- ・ 県内高校生のための教育にも資するような大学について来年度以降検討する旨を記載してはどうか。
- ・ 県民のための県民立大学にする、そうした考えをもって検討するのがよいのではないか。
- ・ 19～22 歳の 4 年間でターゲットにするよりも、15～30 歳という幅広い年齢層に関与できるような大学にしてはどうか。